

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2025年秋号 vol.34



NPO法人 見沼ファーム21

見沼ファーム21は、1999年に県からの委託を受けて市民を対象とした体験水田の活動を開始。水田保全とともに藁細工など稲作文化の継承や生きもの調べなど、様々な活動を行っています。上山口新田では2004年に委託を受け、米作りを開始。その後近隣の農家さんからの依頼を受けて援農も始まり、現在は11反ほどの水田で活動が続いています。<https://www.minumafarm21.org>



秋のごはん

生姜ちらしずし

猛暑続きで、体内に籠った熱を生姜の力で追い出そうと、生姜ちらしずしを作りました。

新米に五穀米を少し加えて炊き上がったなら、合わせ酢を回し入れてすし飯を作ります。あら熱が冷めたところへ、水に晒して水切りしていた千切り生姜を混ぜこみます。

◎米320g／酢大さじ4／砂糖大さじ2／昆布茶大さじ1



◀色合いも鮮やか



▲千切り生姜



今年で5回目のカヌーで芝川の「清掃活動」

見沼たんぼの悪水路（排水路）である芝川は、荒川を経て海につながっています。芝川小学校土曜チャレンジでPTAおやじの会と一緒に子供たちのカヌー体験会を行っていたことがきっかけで、カヌーで子供たちと芝川のクリーン活動をやろうと始めたのが「しばかわリバサポ」です。

しばかわリバサポは川の国埼玉応援団にも登録し年1回、カヌーによる川の清掃、環境改善に向けた啓発や学習を行います。



▲トラック1台分のゴミ

5回目の今年は子供24人・大人38人の62人で芝川小学校付近から中村橋まで約400mの区間で行いました。成果として錆びた自転車3台を含め軽トラック1台分のゴミを回収しました。

地域人ネットワークの「養成講座」を基礎に



▲養成講座

地域人ネットワークには2012年カヌーサポーター養成講座で講習を行った大宮カヌークラブ員と講座を受けたサポーターが4名おり、これまで市内の小中学校などでのカヌー体験会をサポートしてきました。

2012年8月見沼代用水東縁カヌーツアーサポーター養成講座は地域社会でのボランティア活動を模索するシニア世代の市民を対象にさいたま市みどり推進課との協働でカヌー操作とサポートの実技および見沼代用水についての講座を開講して8名のサポーターを育成しました。

河川・カヌー環境の改善

当時、芝川は汚く臭いイメージがありカヌーでの

清掃は考えてなかったのですが、見沼田んぼのごみは芝川から荒川を経て海に流れ込むのでSDGsの立場から清掃が必要と思うようになりました。台風や集中豪雨でもない限り見沼代用水の流れは、歩く速度程度で水深もひざ下程度でしたが、排水路の芝川はもっと流れはゆるやかで水深も浅く川底は細かい砂地になっています。



▲カヌー用の階段施設

近年は河川改修工事も進み、ボラなどの群れが観察されるくらいに水質も回復。加えて埼玉県により昨年7月、芝川小学校に近い松山橋と見沼合併記念公園南端の2カ所にカヌーの出しやすしい階段施設を設置していただきました。

カヌーサポーターの養成と芝川清掃活動の継続

川での活動となると安心安全のため大きなリバーカヌーが必要ですが、カヌークラブ員でも置き場に困っている話をすると校庭に大きなカヌーラックを組み立ててくれ、20艇以上のカヌーとパドルが収納されいつでも使える状態になりました。

この機会に今年カヌーサポーターを作りたいと募集したところ、希望する女性メンバーが3名あり事前にカヌー講習を行って、しばかわリバサポのサポートをしました。

見沼田んぼは水田よりもプラスチックを多く使う畑作に代わっています。これからもカヌーサポーターを養成し、年1回でなく年に何回もカヌーによる川掃除を続ける必要があると思っています。



▲カヌーラック

地域人ネットワーク・小島文一

MINUMA EVENT INFORMATION

さいたま市農業祭

さいたま市の秋の大収穫祭として、市内の農業生産者、市民・消費者の交流の場、また地産地消の推進を目的に2日間、開催されます。

さいたま市内の農業者による野菜・果物・花き・植木・農産物加工品の直売や餅つきなどのイベント、友好都市の特産品直売、多彩な出店及びショーなどがあり大人から子供まで家族連れで楽しめるイベントです。特に、生産者が自慢の農産物を披露する共進会（農産物品評会）は、600～700点の農産物が展示・販売され、受賞した農産物は人気の的となっています。さいたま市内の農業関係のイベントでは、最大規模のお祭りです。（入場者数は過去の実績で約11万人です。）



2025年11月15日(土)・16日(日)

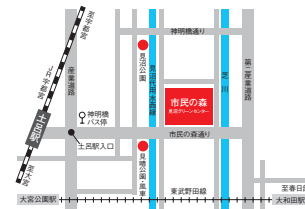
9:00～15:00 ※雨天決行

場所:市民の森・見沼・グリーンセンター（北区見沼）

主催:さいたま市農業祭実行委員会

事務局:さいたま市経済局農業政策部農業政策課内

アクセス:JR宇都宮線 土呂駅・徒歩7分、東武アーバンライン 大和田駅・徒歩15分



みぬま秋フェス2025 in さぎ山

見沼たんぼの交流の場「見沼・さぎ山交流ひろば」では、緑区のさぎ山記念公園で「みぬま秋フェス2025 in さぎ山」を開催します。

・ヌーちゃんのフワフワ遊具

・産直野菜の販売

・見沼たんぼクイズラリー

・青空実験教室 工作体験

・紙芝居など、親子で楽しめるプログラムが盛りだくさん。



2025年11月22日(土)・23日(日) 10:00～15:00

※雨天決行 ※プログラムにより、中止する場合があります。

場所:さぎ山記念公園（緑区）

参加費:入場無料 ※有料のプログラムもあります。

お問い合わせ:さいたま市見沼田圃政策推進課（見沼・さぎ山交流ひろば運営協議会事務局） TEL.048-829-1413（平日のみ）



子育てと派遣仕事に野菜作り・直売と忙しい原田利枝子さん

幼少期から祖父母の手伝いでサトウキビの収穫を行い、大学は農学部に進学。子育てしながらシェア農園のアドバイザーの仕事を通じ、安全な美味しい野菜作りに興味を持ち、若い頃から目指した農業の道で頑張っています。

現在は北区の見沼たんぼでじゃがいも・玉ねぎ・おくら・白なす、秋にはカブ・赤大根・スティックブロッコリー等作っていますが、今後ボンジョルノやサンマルツァーノといった加熱で旨味が増す調理トマトや甘いフルーツ人参の生産・加工も計画中。

2人の子育てと派遣(週3日室内業務)の傍ら、一人で収穫・販売と忙しい日々ですが、今後は競合しない美味しい色々な野菜に挑戦し、そしてネット販売や収穫体験農園も目指していきたいとの考えです。

大和田直売所:見沼区大和田1-1634-2

火・木・土13:30～

窯茶業:中央区下落合2-12-11 毎月曜11:00～

その他、原田さんのインスタをご覧ください。



▲農園での原田利枝子さん



▲窯茶業での直売



▲真夏の畑の野菜



「鈴木農園」鈴木潤也さん

もともと農業か林業をやりたいと思っていた、という鈴木潤也さん。大学卒業後、農業法人に就職。その後、埼玉県農業大学校の有機コース



でも学びます。農業法人での仕事も楽しかったけれど、やはり自分のやりたいようにできたいなと思い、畑を借りて野菜を作り始めました。その後、鶏(モミジとタマシヤモ)の飼育も始め、今は8反の農園で季節の露地野菜と平飼卵の販売、鶏の飼料用に麦も栽培しています。なんとなく自給自足の生活に憧れていた、という鈴木さん。今年は農園内に田んぼも作りました。水はパイプを埋め込んでソーラーパネルの電力で汲み上げる自作の井戸でまかなっています。

飼ってみたら以外と可愛くてもっと増やしたくなったという鶏は、広々とした 囲いの中で草陰に集まったり、地面をつついたり、気ままにのんびり過ごしています。鶏舎の中は気持ち良く風が吹き抜けて、向かいの小屋ではヒヨコたちが元気に走り回っています。今後は果樹にも取り組みたいと、ブルーベリーやアンズ、スモモなどの栽培も始めました。ゆったりと流れる時間を感じる農園です。

鈴木農園:TEL.090-8309-6461

販売:農園直売所(新都心から延びる高速埼玉新都心線のさいたま見沼出口近くにある大道西橋のたもとにあります。平飼卵のノボリが目印)/美園カインズの地場生産者コーナー

「浦和西高斜面林友の会」の活動紹介

26年前の「浦和西高市民開放講座」の学びから始まりました

1999年に開始された「浦和西高市民開放講座」で、見沼たんぼの斜面林の現状を学んだ私達地域の住民は、西高の教職員・生徒・PTA会員のひと々と共に、2003年に「浦和西高斜面林友の会」を立ち上げ、落葉広葉樹林への再生を目的として活動を始めました。

「貴重な下草の豊かな落葉広葉樹林」の再生を基本に

見沼たんぼ全体が水田だった頃の斜面林は、落葉広葉樹が豊かに茂る雑木林でした。

米の減反によって水田がほとんどなくなり、管理されなくなった斜面林は、温暖地特有の常緑照葉樹が密生し、日が当たらず下草も全く生えない過密林となりました。このため、常緑照葉樹を伐採し、再生した貴重な下草を保全し、清掃、落葉かき、堆肥作りなどを行っています。

会報誌「実生(どんぐり)」の発行は270号となりました。また、西高文化祭にも参加しています。



活動内容

活動場所:埼玉県立浦和西高の斜面林
浦和区木崎3-1-1

活動日:毎月第2土曜日 9:30～11:30

会費:1,000円/年 ボランティア保険・連絡費等

参加希望者は活動日に管理棟2F 地学室に来て会員に声をかけてください。

ホームページ:<http://unshamenrin.wixsite.com/un-shamenrin>
Instagram:(貴重な下草の写真がたくさん掲載されています)

https://www.instagram.com/urawanishi_shamenrin?igsh=ZHIxMnYzdjZvbXcy&utm_source=qr



URAWANISHI_SHAMENRIN



秋風の中、大宮公園をスタート、一周15kmを走る

今回は、大宮公園スタート/ゴールで文化と自然あふれるコースをたどります。

まず、大宮公園の歴史と民族の博物館からスタートして、漫画会館を目指します。ここは近代風刺漫画の祖と言われている「北沢楽天」ゆかりの地に建てられた、公立美術館として日本初となる漫画を主な収蔵品とした美術館です。この辺りは木々も多く、案内板もあるので迷わず散策できる良い環境です。

次は盆栽美術館です。大宮盆栽村のシンボルでもあり、日本を代表する盆栽の名品が数多く展示され、海外からも注目を集めています。ショップや撮影エリアなどもあり、盆栽初心者でも楽しめます。

市民の森からいくつもの公園ゾーンを走る

次は市民の森・見沼グリーンセンター。ここは農業祭(P3参照)や様々なイベントに利用されている市民の憩いの場所です。広場の奥には「バラ園」や「りすの家」があります。自転車は侵入禁止なので徒歩で散策しました。

そこから芝川沿いに南下します。大和田公園、大宮第二公園と続き、自転車には走りやすい道で快適です。しばらく進むとみぬま見聞館(2023年秋号 P5に掲載)に到着。ここでは自然観察・環境学習会など様々な体験・学習ができます。

さいたま新都心から氷川参道を経て大宮公園へ

そして、さいたま新都心へ出て、日本一長い参道の氷川参道を抜けて大宮公園でゴール。総距離約15kmの自転車散歩でした。



▲氷川参道入り口



▲漫画会館



▲盆栽美術館



▲市民の森・見沼グリーンセンター 芝生広場とりすの家



▲みぬま見聞館

三好あき子と歩く「見沼自然散策」のご紹介

9年半前から続く三好あき子さんの「自然散策・観察会」

三好あき子さんは、埼玉県生態系保護協会の副会長・理事で春日部支部長さんです。その豊富な知識と経験と毎回、ゲストの皆さんと共有しながら見沼たんぼの自然環境の観察会を続けられています。2016年4月からですので、9年半継続していることになります。(暑い8月と寒い1月をのぞき毎月の開催です。)

見沼自然公園・周辺の斜面林や屋敷林で観察・学習

さぎ山記念公園に集合し、隣にある見沼自然公園や斜面林、台地の上の農家の屋敷林などを、小さな花や実、昆虫や鳥などを観察しながらのんびり散策しています。同じところを歩いても、季節が違えば咲いている花が違いますし、出会う生き物も違います。それに加え、昆虫が好きな方、植物が好きな方、鳥の声を楽しみにしている方などの参加者が、知識や情報を交換しながら、初めての方にも伝えてくれる姿も印象的です。

2kmほどの散策・観察会と室内での感想・学習会

さぎ山記念公園にあるさぎ山記念館に9時半に集合し、周辺散策をした後、さぎ山記念館に戻ります。歩く距離は2キロ程度です。原則、雨天決行で、雨が降っているときは室内でお話などをし、雨が上がれば外に出たりしています(荒天中止)。

次の自然散策会は10月13日(月・祝)を予定

年1回程度、別なところに出かけての自然散策も行っています。2025年度は11月24日に「ミニ見沼 黒沼を歩く」を予定しています。詳しくは見沼たんぼ地域ガイドクラブのホームページをご覧ください。・見沼たんぼ地域ガイドクラブ <http://www.minuma-guide-club.com/>



地産地消(トレトリ)サポーターとは

さいたま市では、「さいたまでトレたものを生活にトリいれよう」をキャッチコピーに、地産地消を推進しています。いつでも、好きなときに、できる範囲で、気軽に「トレトリ」を応援するサポーターのことです。

【登録条件】

- ・さいたま市の地産地消を応援したい個人・団体
- ・電子メールで市と連絡を取ることが出来る方
- ※登録にあたり、年齢、性別、居住地などは問いません。

※登録無料のボランティアとしての活動になるため、報酬等が出るものではありません。

<https://www.city.saitama.lg.jp/005/002/002/p117811.html>

さいたまでトレたものを生活にトリいれよう

地産地消サポーター

登録はコチラ

地産地消の活動を通じて、さいたま市の農業をもっと好きになませんか?

活動内容

- さいたま市の地産地消を応援
- 地産地消について、知見を広げ情報交換
- マルシェなどのイベントに参加
- 地産地消について一歩一歩情報交換

特典

- メルマガやイベントなど、最新の地産地消情報をメール配信
- 市の制度や補助金なども、サポーター限定でメールでのご案内

登録できる方

- さいたま市の地産地消を応援したい個人・団体
- 電子メールで市と連絡を取ることが出来る方
- マルシェなどのイベントに参加
- 地産地消について一歩一歩情報交換

詳細は裏面へ

お問い合わせ先: さいたま市経済産業政策課 地産地消推進課
TEL: 048-834-1378 E-mail: regis-saitama@city.saitama.lg.jp

おもしろ盆栽村の盆栽園巡り 盆栽文化ツアー

2025年10月15日(水) 集合:9:30大宮公園駅
解散:12:30盆栽美術館 参加費:300円

●コース:大宮公園駅→芙蓉園→かえで通り→漫画会館→盆栽生みの親の碑(植竹稲荷神社)→盆栽四季の家→蔓青園→盆栽美術館(12時30分頃解散)(傷害保険に加入していません。必要であれば各自、ご加入ください。) 小雨決行

申込先:黒澤兵夫

メール:kurosawa@peach.ocn.ne.jp

FAX.048-687-5543 TEL.080-1038-6712



秋のガイドツアー

環境にやさしい農業の講演会

2025年9月30日(火) 14:00 ~ 15:30

場所:大宮区役所会議室(4階)

演題:「植物と人、畑と街を結ぶ」農園活動について

講師:「けはき農園」園主 石井梨及さん

(2025年春号 P6 MINUMA New Faceに掲載)

参加費:無料

申し込み先:黒澤 kurosawa@peach.ocn.ne.jp

石井梨及さん



核都市広域幹線道路検討 市民団体に「2ルート案」の説明がありました。

9月1日さいたま市広域道路推進室の主催で、市民団体への説明会が開催されました。

参加した団体は10団体ほど。大宮国道工事事務所や埼玉県土木部の出席はありませんでした。



ルート案は、「北ルート」と「南ルート」

インターチェンジは高畑陸橋東側の笹久保新田地区。浦和インターから1.8km(2分)の位置。

主たる道路構造

自動車専用道路、片側2車線、幅員25.5m。想定工事費は、北ルートが2,600億円~2,700億円。南ルートが2,800億円~2,900億円。

さいたま市道の併設提案

自動車道片側1車線、自転車道、歩道、幅員片側10mほどを両側に併設。建設費は未算定。高架の自動車専用道と併設市道で合計幅員45~50m程。

やっと「土俵」にのってきました

2023年度の説明会等では何を質問しても全て「未定」でした。2024年度、大宮国道工事事務所は説明会・ワークショップなど何もやりませんでした。

今年の6月にさいたま市長と埼玉県知事が、国土交通大臣に「検討を進めてほしい」との要望を出して、8月に「地元(市)検討会」が開催されました。30年後を目指す大事業ですので、可否を含めて市民・住民参加で多面的な意見交換と適切な判断・選択が求められてきます。

秋のガイドツアー

平安時代後期から続く「見沼・鷲神社・龍頭の舞祭り」ツアー

2025年10月12日(日) 集合:浦和駅東口広場 9:45集合 募集15名(参加費:300円)

940年ほど前、平安時代後期。【奥州・清原一族の内紛に源氏が介入した戦の「後三年の役」】。苦戦する兄・源義家の救援に、弟・源義光が奥州に赴く際に鷲大明神に奉納した舞に起源をもつとされている鷲神社の「龍頭の舞」に参加します。

また、見沼代用水東縁周辺の台地から見沼自然公園の中を歩き、見沼の歴史・文化、秋の見沼たんぼの自然に親しんでいただきます。

●コース:浦和駅東口広場 バス10:00⇒バイパス大崎10:20⇒國昌寺(トイレ)⇒緑のトラスト1号地⇒10:50 鷲神社の龍頭の舞の舞に参加11:45⇒見沼自然公園 12:15 解散(昼食)⇒締切橋⇒大宮駅

●徒歩:4km お弁当持参 ●申込先:ガイド・北原典夫 FAX.048-834-5731 TEL.090-2675-1684
メールアドレス: minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp



▲鷲神社の「龍頭の舞」祭り



今号に掲載された、見沼たんぼ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぼ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2025年 秋号 vol.34

発行：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

<https://minuma-miraiisan.jp> e-mail: minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：アームズ

発行日：2025年9月15日

We
Love
Minuma



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。